

もっと安心農産物 (エコ認証) ズッキーニ 栽培暦 (令和6年度)

JAちばみどり海上野菜組合ズッキーニ部

1. 土づくり

・堆肥の施用と化学肥料由来の窒素成分を抑制した施肥の実施

2. 施肥 ☆ 土壌診断にもとづく施肥量の遵守 ★ ハウス初夏どり 化成態由来窒素 限界量 8.5kg

	肥料名	施肥量
基肥 (①・②・③は選択) 特に③施用時は化成由来窒素の 超過に十分注意する。	① 果族円満(8-10-4)有機態窒素4.0 または	150kg/10a以下
	② 有機味好2号(7-2-7)有機態窒素7.0または	300kg/10a以下
	③ 粒状石灰窒素(21-0-0)	40kg/10a以下
	④ みどりマグ	80kg/10a以下
	⑤ けい酸加里(0-0-20)	80kg/10a以下
追肥	トミー液肥グリーン (6-8-8) 有機態窒素0.3 または	40kg/10a以下
	ランセット N (6-3-1) 有機態窒素3.0	40kg/10a以下

3. 防除

★ 化学合成農薬 8使用成分回数まで

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	使用時期(収穫前)	対象病害虫	備考(耕種的防除の実施等)
3月上旬	作付前	うどんこ病・灰色かび病・軟腐病・コナジラミ・アザミウマ・アブラムシ・オオタバコガ・ヨトウムシ	キルパー	60L/10a	前作の栽培終了後～残渣撤去まで(播種または定植15日前まで)	前作の古株枯死	・育苗床・本圃では、換気(サイド)・出入口にネットを張り(網目:1mm以下)外部からの害虫進入を防ぐ。 ・育苗床にて、黄色粘着板設置による害虫把握及び初期防除により本圃へ害虫持込をなくす。
中旬	播種		ネマトリンエース粒剤	20kg/10a	定植前	ネコブセンチュウ	
下旬	定植		ベストガード粒剤	1~2g/株	定植時	アザミウマ類	
4月上旬			アフェットフロアブル	2000倍	前日まで	うどんこ病	
中旬	収穫		チェス顆粒水和剤	5000倍	前日まで	アブラムシ類	
下旬			モスピランジェット	くん煙容積 400㎡:50g	前日まで	アブラムシ類	
5月上旬			スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日まで	アブラムシ類	
			アフーム乳剤	2000倍	3日前まで	オオタバコガ	
			トリフミンジェット	くん煙容積 400㎡:50g	前日まで	うどんこ病	
下旬			スターナ水和剤	1000倍	前日まで	軟腐細菌病	
6月上旬			ダコニール1000	1000倍	前日まで	うどんこ病	
			トップジンM水和剤	1500倍	前日まで	うどんこ病	
			プレバソンフロアブル5	1000倍	前日まで	ハモグリバエ類	
			ベルコート水和剤	2000倍	前日まで	うどんこ病	
下旬	カスケード乳剤		2000倍	前日まで	トマトハモグリバエ		
7月下旬	ウララDF		2000~4000倍	前日まで	アブラムシ類		
中旬	モベントフロアブル		2000倍	前日まで	アブラムシ類 コナジラミ類		
下旬	アカリタッチ乳剤		2000倍	前日まで	うどんこ病		
			1000~3000倍		ハダニ類		
8月上旬	ガッテン乳剤		5000倍	前日まで	うどんこ病		
下旬	トマトトーン	50倍	花に1回	着果促進			

＜化学合成農薬に含めない薬剤＞				
薬剤名	希釈倍数 ・処理量	使用時期 (収穫前)	対象病害虫	備考
ゴッツA	500 倍	発生・発病 初期	コジラミ類 アブラムシ類 うどんこ病	
ゼンターリ顆粒水和剤	1000 倍	発生初期 (但し、収穫 前日まで)	コナガ、アオム シ、ヨウムシ、オ オタバコガ	
ボトキラー水和剤	夕外内投入 10～15g／10a ／日	発病前～発 病初期まで	灰色かび病	
ジーファイン水和剤	750～1000 倍	前日まで	うどんこ病	
カリグリーン	800～1000 倍	前日まで	うどんこ病	
スピノエース顆粒水和剤	5000 ～10000 倍	前日まで	アザミウマ類	
Zボルドー	500 倍	—	軟腐病 軟腐細菌病	
イオウフロアブル	500～1000 倍	—	うどんこ病	
硫黄粉剤50	3kg/10a	—	うどんこ病	

みんなで守ろう生産基準